

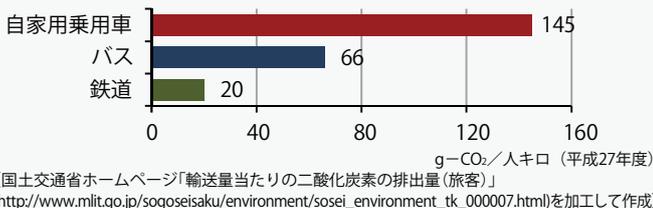
# エコ通学のススメ

「雨の日だけはバスで行こう」、「寒くなったら乗ればいい」。そんな公共交通利用もあります。しかし、それができるのも、公共交通があってこそです。公共交通を維持するには、多くの人々が利用することが必要です。いざというときの貴重な足でもある公共交通について、ぜひ一度、考えてみてください。

## 環境を考える

地球温暖化が深刻な問題となっている今、環境に優しい鉄道やバスなどの公共交通が見直されています。過度にクルマに頼る暮らしから、公共交通、自転車、徒歩など、様々な移動手段を状況に応じて「賢く」使う暮らしへと変えてみませんか。

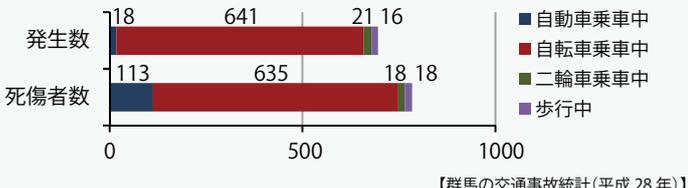
1人を1Km運ぶのに排出するCO<sub>2</sub>



## 通学の安全・安心

慣れない高校での生活は、いろいろと疲れるもの。注意力の低下から、通学途中、交通事故などに巻き込まれることも心配です。公共交通なら、雨の日も、雪の日も、安心です。

群馬県内の高校生の交通事故(人身事故)  
-交通手段別の発生数、死傷者数-

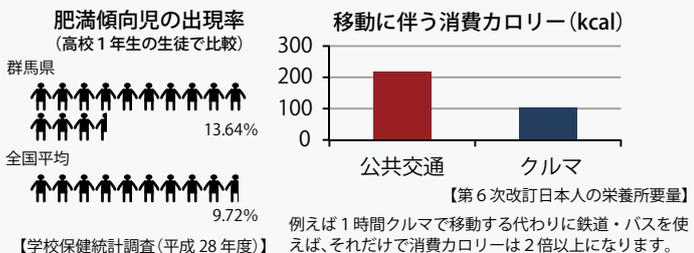


県内の高校生の関係した交通事故(人身事故)は、平成28年中に延べ696件発生しています(2件は高校生同士のため重複計上)。そのうち8割が朝夕の通学時間帯に発生しており、9割以上が自転車による事故です。

## メタボ予備軍

群馬県の子どもの肥満率は全国平均と比較していずれの年齢でも高くなっています。大都市に比べてクルマでの移動が多いことが原因のひとつと考えられます。

学校へも塾へもクルマで送ってもらおう生活、見直してみませんか。



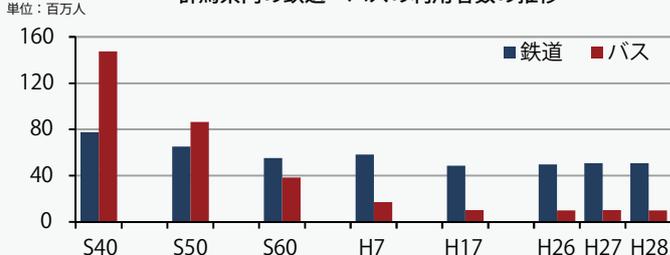
## 通学中にできること

勉強をしたり、本を読んだり、ちょっと仮眠をとったり。鉄道やバスに乗っている時間は、いろんなことに活かせます。友達とおしゃべりできるのも楽しい時間です。

## 公共交通がなくなる!?

群馬県の鉄道やバスの利用者数は、ピーク時に比べ、大幅に減少しています。このままでは、鉄道やバスの本数が減ったり、路線が廃止になったり、移動がさらに不便になってしまいます。みんなが少しずつお互いのことを考え、公共交通を利用することで、公共交通を守ることができます。

群馬県内の鉄道・バスの利用者数の推移



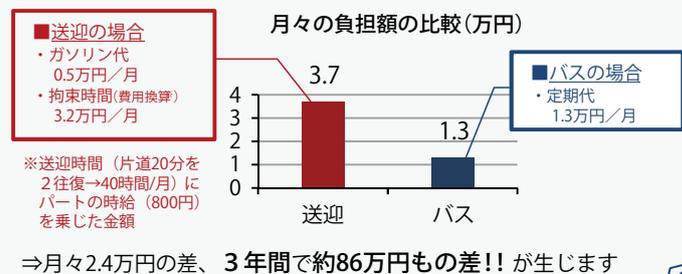
<ピーク時と現在の利用者数の比較> 【群馬県交通政策課調べ】  
◆鉄道 昭和40年度 7,759万人→平成28年度 5,091万人 65.6%まで減少!  
※新幹線利用者を除く。  
◆バス 昭和42年度 1億5,261万人→平成28年度 1,053万人 6.9%まで減少!

## 公共交通は本当に高い!?

バスの定期券は高いから、クルマで送迎した方が断然安いという話を聞きますが、本当にそうでしょうか?

確かに、バス定期は金銭的負担になりますが、送迎に拘束される時間を活用して生活を豊かにすることもできるのです。

<通学距離6km(片道)の場合で比べてみましょう>



## 便利な情報

### ■バス乗りお助け情報マップ

(バス路線情報など)  
<http://www.pref.gunma.jp/04/h2110254.html>



### ■駅からのりかえガイド

(駅周辺の駐輪場情報など)  
<http://www.pref.gunma.jp/04/h2110105.html>



### ■「エコ通学」実践ガイド【New】

(高校別の時刻表情報など)  
[http://www.pref.gunma.jp/04/h21g\\_00029.html](http://www.pref.gunma.jp/04/h21g_00029.html)

